地域の多主体が連携した空き家対策の拠りどころの創出（信濃大町まち守舎）

課題と目的	【課題】地域内で別々の取組（連携不足）・空き家が空かない（情報不足）ほか 【目的】地域の多主体（高校・大学・住民・自治会・企業・行政ら）が日常的に活躍・連携し、山遊びから移住相談・旅から移住希望者・家主等の地域内外の様々な相談対応や関わりしろの機会を提供する空き家対策の拠りどころ（場・機能・ウェブ）の創出による連携促進、情報生産・共有。
取組内容	①空き家相談窓口の設置、②まち歩き「大町わがまち案内人」の開催、③「空き家の学校」の開催、④空き家の相談会の開催、⑤インスペクションの促進、⑥空き資源カルテ（主にインタビュー記事）の作成、⑦コミュニティサイト（人ベースの不動産情報）の開設
成果	これまで見えなかった地域における、空き資源情報の生産→共有→試用の場の創出を地域のステークホルダー(住民・高校・大学・企業・行政ら)で協働実践（プロセスを共有）することで中間支援活動の輪郭を形づくる可能性が示された。事業実施の成果物として、相談窓口・大町わがまち案内人・空き家の学校・空き家の相談会の実施報告及び空き資源カルテを作成した。

▼成果一覧

取組内容	実施数	参加数
定例会議	12回	147人
相談窓口対応	29回	46組
出張相談・現地視察	3件	-
「大町わがまち案内人」	8回	61人
空き家の学校	6回	104人
空き家の相談会	1回	10人
インスペクション	2件	-
空き資源カルテ	3件	-
メディア掲載	11件	右欄参照

※実施数・参加数：2020.2.28現在の実績

➡ 現在構築中のコミュニティサイトへ記事として実装（来春本格稼働予定）

▼メディア掲載一覧

日付	掲載紙	見出し
8月22日	大糸タイムス	″資源″に着目　古材のリユース
10月2日	大糸タイムス	″ガランドウ″から発想期待
11月23日	大糸タイムス	不動産で建物検査体験
12月12日	大糸タイムス	大町に活動「ベース」誕生
12月14日	大糸タイムス	わがまち案内人と水路巡る
1月22日	大糸タイムス	まち歩きで魅力新発見
1月23日	朝日新聞	大町の空き家活用へ相談拠点
1月29日	大糸タイムス	官学連携まちづくり広がる
2月2日	中日新聞	電器店一新　町の拠点に
2月20日	日本経済新聞	移住ライフの発信拠点
2月27日	大糸タイムス	古地図手に散策 歴史触れる

朝日新聞（2020.1.23朝刊）▶

大町の空き家活用へ相談拠点

移住・定住促進へ魅力発信

かつて「塩の道」の拠点宿場として栄えた大町市が移住・定住や空き家紹介、まち歩きなどの相談を強化している。市や大学、自治会長、高校生ら幅広いメンバーで構成するまちづくり組織が市街地に相談窓口を設置。誰でも気軽に立ち寄り、情報交換ができる場を目指す。

「信濃大町まち守舎」の拠点は、市中心部の観光スポット「塩の道ちょうじゃ」の東隣にある「ドットベース大町」にできた。

10年近く空き店舗だった電器店を改修。2月22日まで助成金・土曜と、不定期の平日午後1～5時に大学助教授や元地域おこし協力隊員、移住経験者らが相談に乗ってくれる。

大町市は近年、空き家の増加が問題となっている。15年度の調査では市内全域に425戸の空き家を確認。市中心部の商店街では空き店舗が目立つ。

18年度、市は東大、信州大と共同で定住促進を目的に「まちづくり研究事業」に取り組んだ。18年6月～19年3月に「空き家の学校」を回開催。空き店舗を再生活用するため、受講者（延べ約300人）は空き店舗の大掃除から始め、民泊や空き家の流通などを学んだ。

この活動から生まれたのが、信濃大町まち守舎だった。大町市は北アルプスや仁科三湖など豊かな自然に恵まれている。「市の魅力や就労、子育てなどの情報を発信できる場所が必要」との意見に推され、誰でも気軽に参加できる任意団体として発足した。

国の「空き家対策の担い手強化・連携モデル事業」に採択され、市を挙げての事業として活動している。

白馬村から18年3月に移住した屋田翔太さん（34）はメンバーの1人。まちづくり事業などを手がける「フリーフロート」の最高経営責任者（CEO）で、ドットベース大町を運営する。

4歳と1歳の娘2人がおり、移住のきっかけは「保育園や幼稚園の数が多い。手厚い子育て支援も魅力です」。出産祝い金のほか、入園・入学時に商品券のプレゼントも」と話す。窓口担当者も務め、自身の体験を移住希望者に説明し、市の担当部署の紹介もする。

窓口は期間限定の予定だが、市は「3月以降の活動はメンバーで検討する」としている。窓口は予約不要。問い合わせは、市定住促進係（0261・22・0420）へ。（近藤孝夫）

まちづくり組織「情報交換できる場に」

「信濃大町まち守舎」が相談窓口を開設する空き店舗を活用した「ドットベース大町」

「信濃大町まち守舎」のメンバーで、移住体験者の屋田翔太さん（左）、白馬村の友人夫婦に大町市の子育て支援などを説明していた＝いずれも大町市